

切手の即売会場やバザールでは、大きな箱に無造作に入れられた大量の外国切手の山を見かけます。大体が1枚10円～30円位の価格で販売されていて、男女を問わず好きな人は切手の山と格闘しながらそれぞれ自分なりの好みの切手を1枚また1枚と選り分けて掘り出す作業に熱中しています。

日本切手にしか興味がないという人も食わず嫌いをせずに時間に余裕があるときは一度切手の山を自らの手で探ってみられてはいかがでしょうか。といっても、いきなりどういう切手を選んだらよいのか途方に暮れる方もあるかもしれません。もちろん、ただ好きな図案の切手を探し出したり、いつかどこかで見た覚えのある外国のシリーズ切手を選び出したりすればそれでよいのですが、何も浮かばないときには知っておくためになる、かどうかわかりませんが、切手を選ぶ際のひとつの判断基準を紹介します。

それは消印のきれいな切手を探すということです。手押し消印であれ、機械印であれ、局名や年月が読める使用済が貴重なのは日本切手だけではありません。特定の国にこだわらず、むしろあまりよく知らない国の方が面白いという場合もあると思います。（記：藤岡 靖朝〈日本郵楽会会員〉）

